

令和3年度 中央区立月島第一幼稚園	外部評価報告書
外部評価委員：高木 悦子 山口 啓朗 増田 光辰 木皿儀孝子 黒川 悦子 長島 広隆 (敬称略)	
報告書作成者：峯川一義	
評価時期 令和4年3月	
<p><b>1 重点目標の評価</b></p> <p><b>重点目標1「自分から取り組む意欲を育み、健康な体作りを推進する」</b></p> <p>○「基本的な生活習慣の定着」「運動遊びへの意欲」「体力の向上」の3つの質問項目で保護者が「十分達成」がいずれも60%を大きく上回り、これに「達成」の評価を合わせると96～98%と高い割合を示している。重点目標1についての園の取組に保護者は大きな信頼を寄せていることがうかがえる。一方、複数の教員が「基本的な生活習慣の定着」を「要改善」と評価している。コロナ蔓延の状況にあった中で幼児の健康を守るという強い使命感に基づき、改善点を明確にして共通理解に基づき、共通の実践目標を明確にして指導に当たることが大切である。</p> <p>○全体の評価で「幼稚園は幼児の年齢に応じて園生活に必要な生活習慣を身に付けている」は「十分達成」が78%、「達成」と合わせて99%超の評価をしており、幼児の発達に応じた健康づくり指導の成果が挙げられていると考える。</p> <p><b>重点目標2「多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む」</b></p> <p>○3つの評価項目の保護者の評価は他の重点目標に比して「要改善」が散見される。一方、教員の評価は、「十分達成」「達成」を合わせるといずれも100%である。さらに細かく見ていくと「十分達成」は、「気持ちの伝え合い」「挨拶の励行」「葛藤する気持ちの調整」の順になっている。我が子を主観的に見ての評価と教員の全体的に見る評価の違いもあろうが、教員は幼児の園で経験している一人一人の様々な感情を見逃さないよう努めることが大切である。</p> <p>○重点目標2は、幼児の心の成長を見取る内容の目標である。教員の幼児に接する姿勢や言葉かけなどが幼児の心の成長に大きな影響を与える。様々な場面での葛藤している姿を認め、行動の結果ばかりにとらわれず、内面に目を向けた幼児理解が求められる。</p> <p><b>重点目標3「好奇心や探求心を引き出し、思考力の芽生えを育む」</b></p> <p>○「集団での切磋琢磨」についての教員の評価は「十分達成」が100%、「試行錯誤する楽しさ」については、「十分達成」「達成」合わせて100%である。保護者もこの2つに関する回答は、「十分達成」「達成」合わせてどちらもほぼ100%である。教員の日ごろの幼児に接する姿勢が幼児の向上心を高めた結果であろう。こうした成果を様々な手段や機会を通しての情報発信と相まって保護者もまた高く評価していると考えられる。</p> <p>○「動植物からの豊かな学び」は、重点目標3の質問項目の中で「十分達成」が教員、保護者とも他の項目との比較の上では少なかった。一方、全体の評価6「幼稚園は、幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる体験に進んで取り組んでいる」は、「十分達成」が全調査項目で最高の評価を得ている。「豊かな学びとは…」の具体的な幼児の姿を明確にし、成果が目に見えるような到達目標を定め実践するとよいのではないかと。</p> <p><b>2 今後の改善に向けた意見</b></p> <p>○保護者の自由記述には、学級の幼児数の多い学年に対する意見や要望がいくつか寄せられている。教員定数は変えることができないので、教員の協力体制を一層強化して保護者の不安を払拭するよう可能な限りの手立てを講じる必要がある。</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>○保護者アンケート全29問中「要改善・改善」と答えた数が僅か1～3名であるものが21項目あり、残りの8つの項目でも10人を超えている(12人)のは1項目、残りの7項目は10人未満である。とりわけ「幼稚園は保護者にとって相談がしやすく、親身になって対応している」は「十分達成」が72%、「達成」と合わせて99%と高く評価されており、保護者の信頼は厚いものと考えられる。保護者の自由記述にも「先生方」という文言がいくつも見られ、教員が協働して保護者の意見や要望、不安や悩みに対応している様子がうかがえる。</p>	

